

**ADVANTEST®**

# 2020年度（2021年3月期） 第1四半期決算説明会

2020年7月30日  
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

# ご注意

---

## 会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

## 将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

## 本資料の利用について

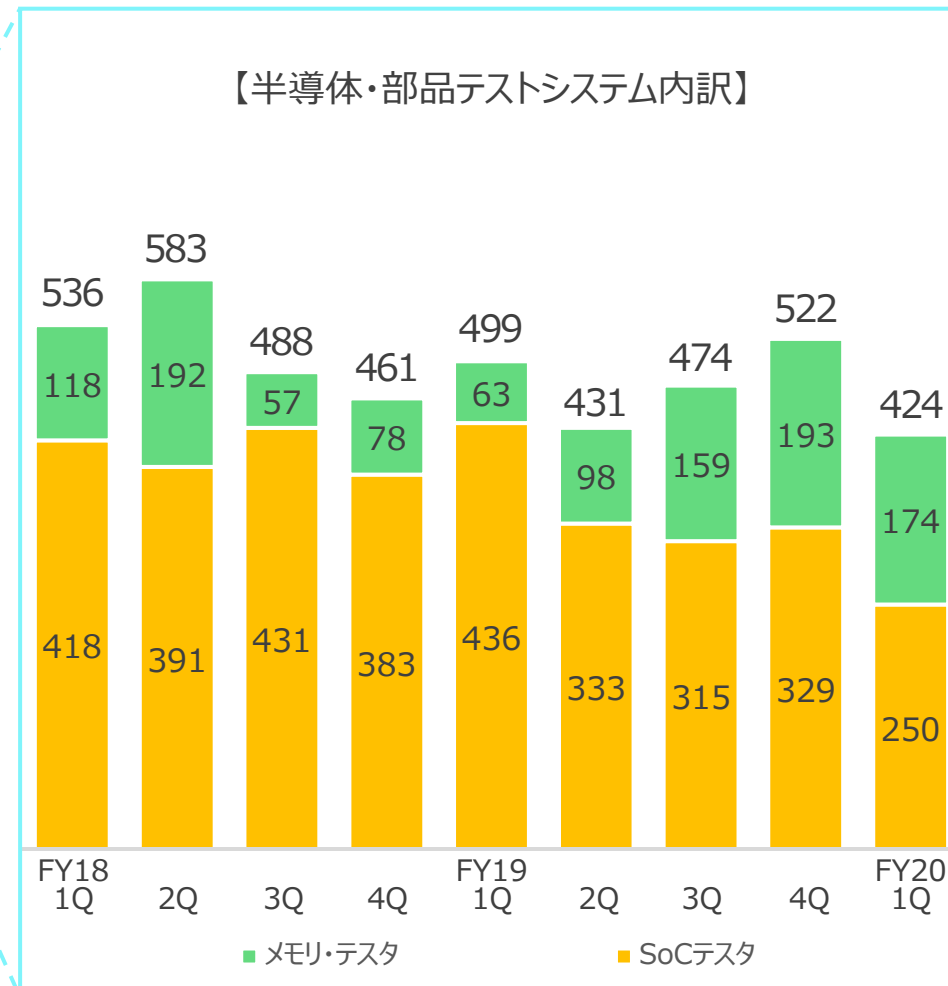
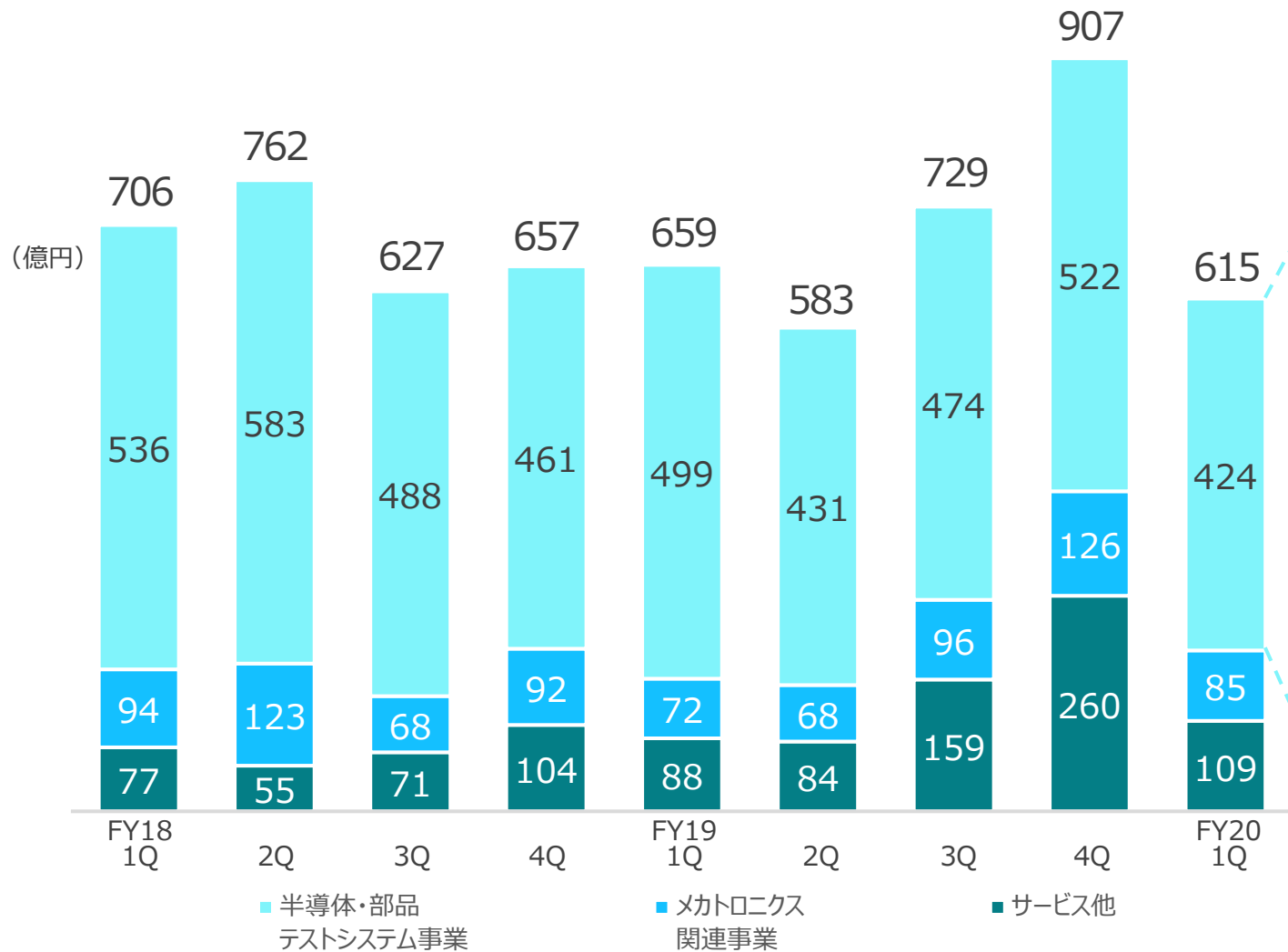
- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。

# 四半期業績推移

(億円)

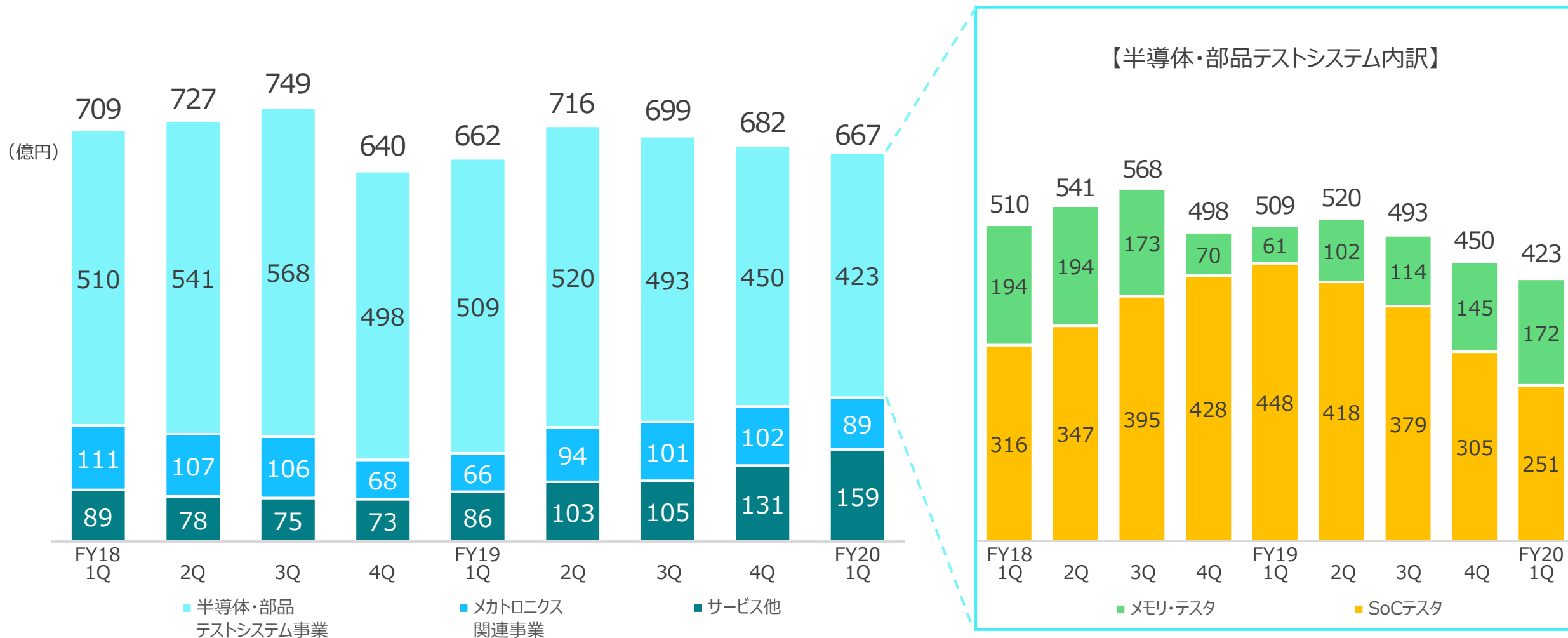
	FY19				FY20					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		前期比		前年同期比	
					予想	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	659	583	729	907	620	615	-293	-32.3%	-44	-6.7%
売上高	662	716	699	682	700	667	-15	-2.2%	+6	+0.8%
売上総利益	394	410	394	367	-	380	+12	+3.4%	-14	-3.6%
売上総利益率	59.5%	57.3%	56.4%	53.8%	-	56.9%	+3.1pts		-2.6pts	
営業利益	152	177	142	116	130	135	+19	+16.2%	-17	-11.2%
営業利益率	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	18.6%	20.2%	+3.2pts		-2.7pts	
税引前四半期利益	149	184	145	108	130	129	+21	+19.2%	-21	-13.7%
四半期利益	121	147	119	148	105	106	-43	-28.8%	-15	-12.7%
四半期利益率	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	15.0%	15.8%	-5.9pts		-2.5pts	
M&Aに伴う受注残の増加				+42						
受注残	746	613	643	910	830	857	-53	-5.8%	+111	+14.9%
為替レート	1米ドル	111円	108円	108円	110円	105円	108円	2円 円高		3円 円高
	1ユーロ	125円	121円	119円	121円	120円	118円	3円 円高		7円 円高

# 四半期受注高 事業セグメント別



\*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

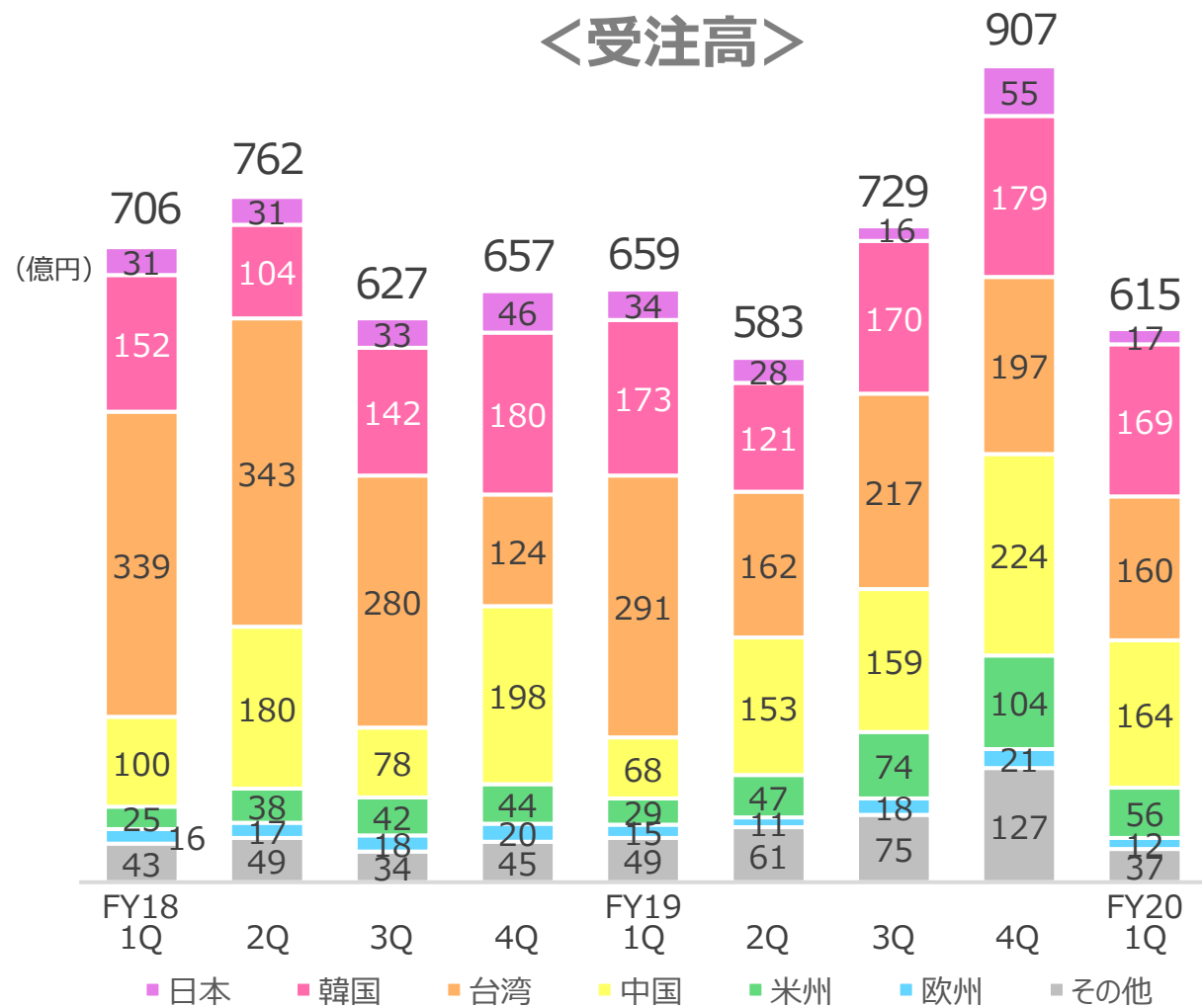
# 四半期売上高 事業セグメント別



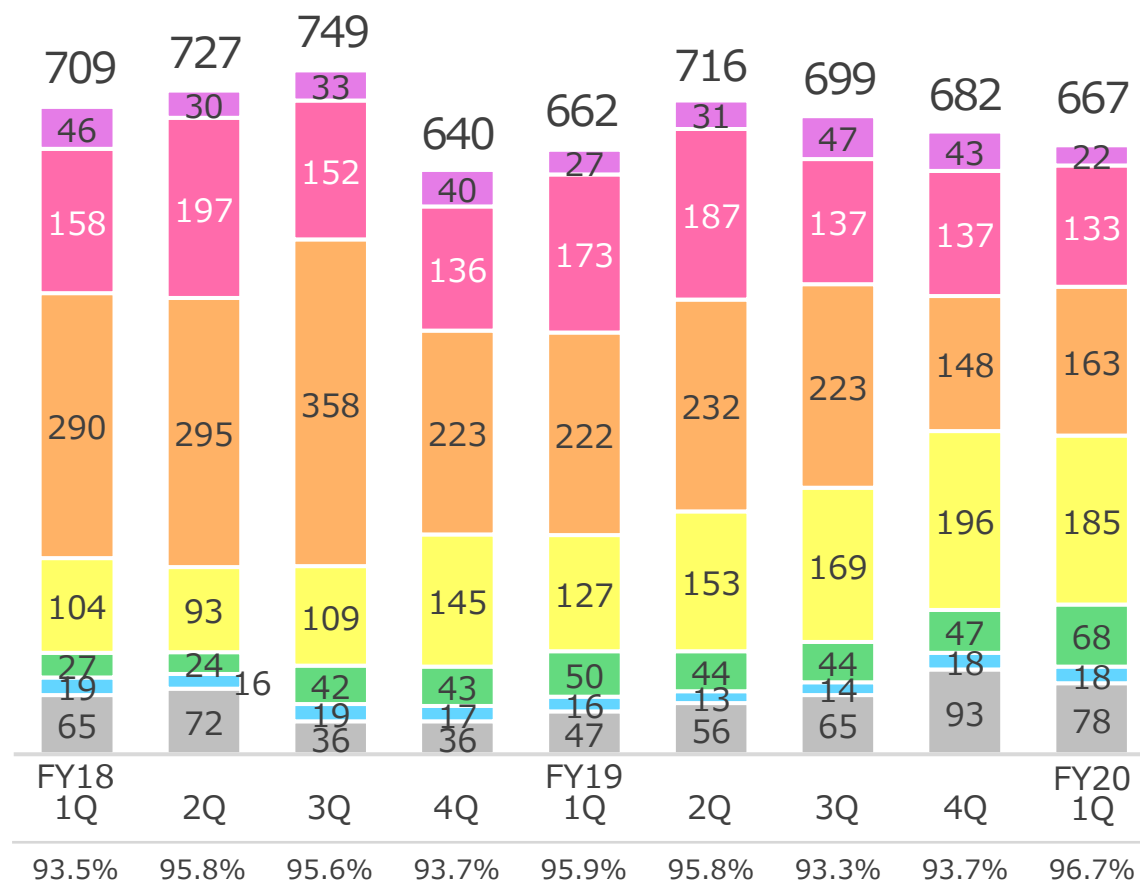
\*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

# 四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別

<受注高>



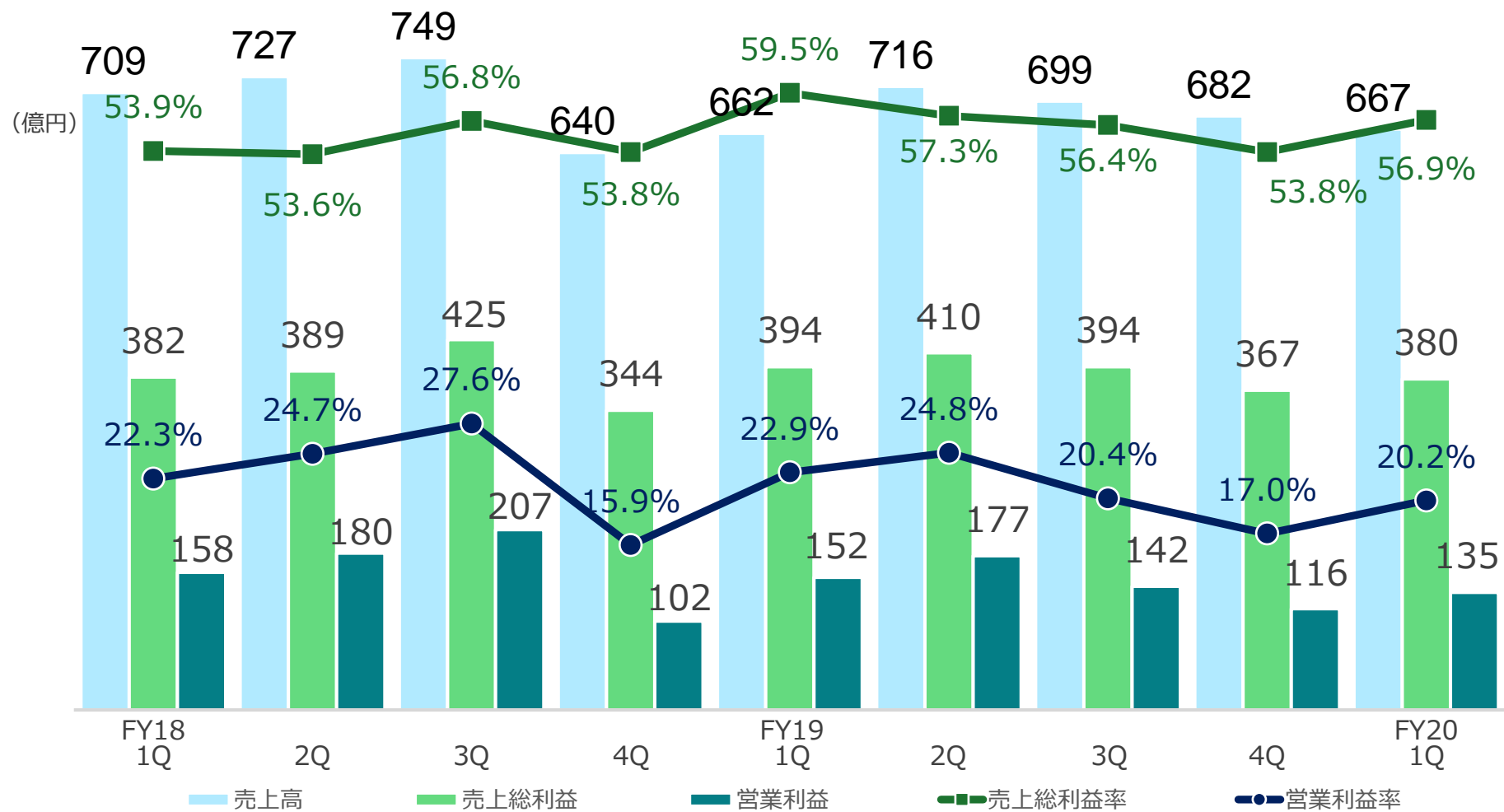
<売上高>



海外売上高比率

93.5% 95.8% 95.6% 93.7% 95.9% 95.8% 93.3% 93.7% 96.7%

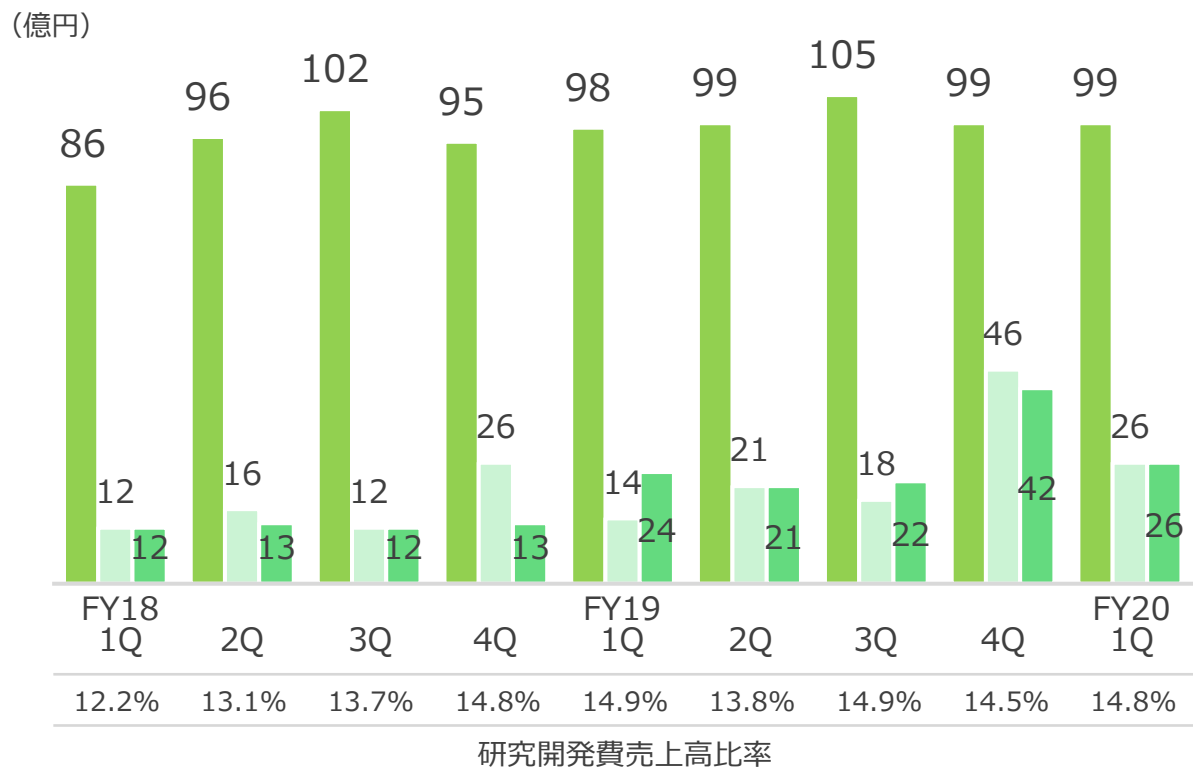
# 売上高/売上総利益/営業利益



# 投資等/キャッシュ・フロー

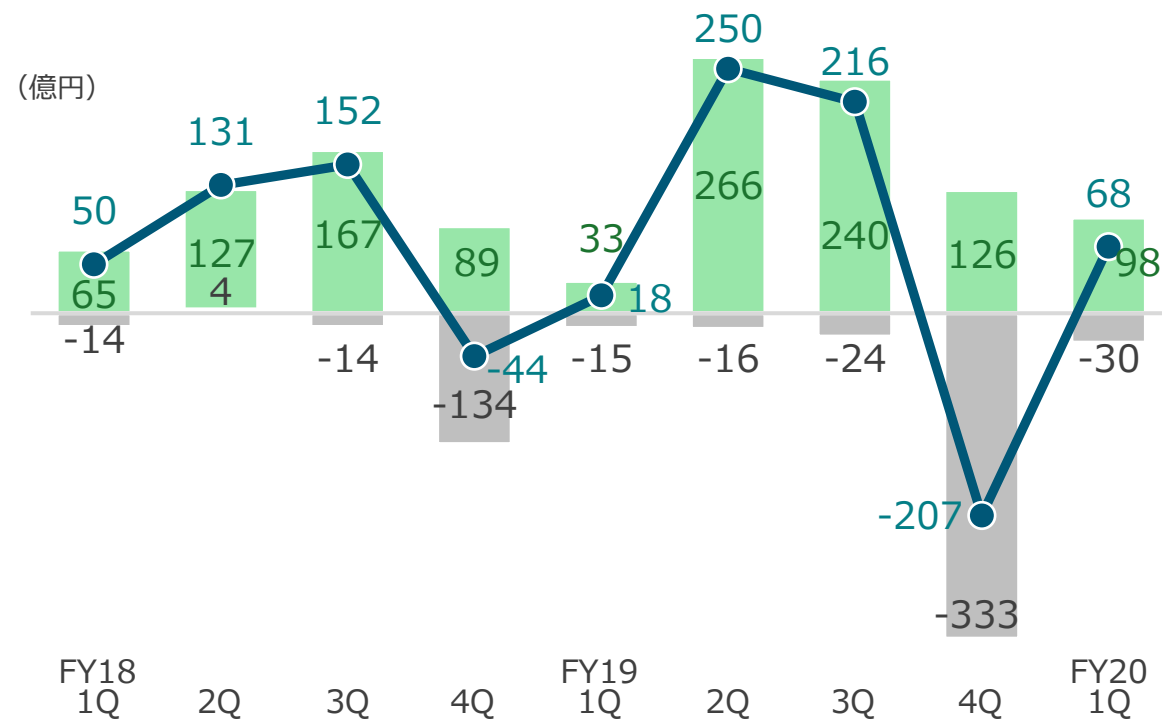
## <投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



## <キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

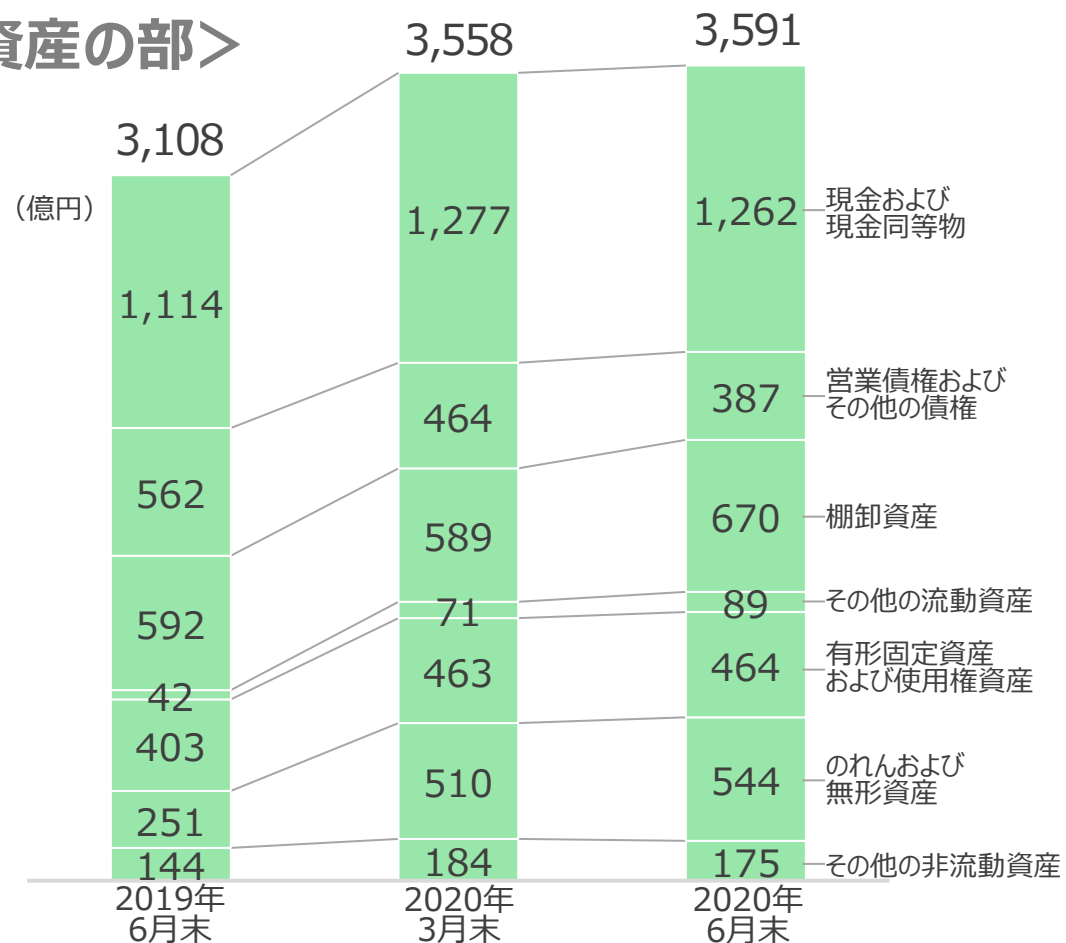


\*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

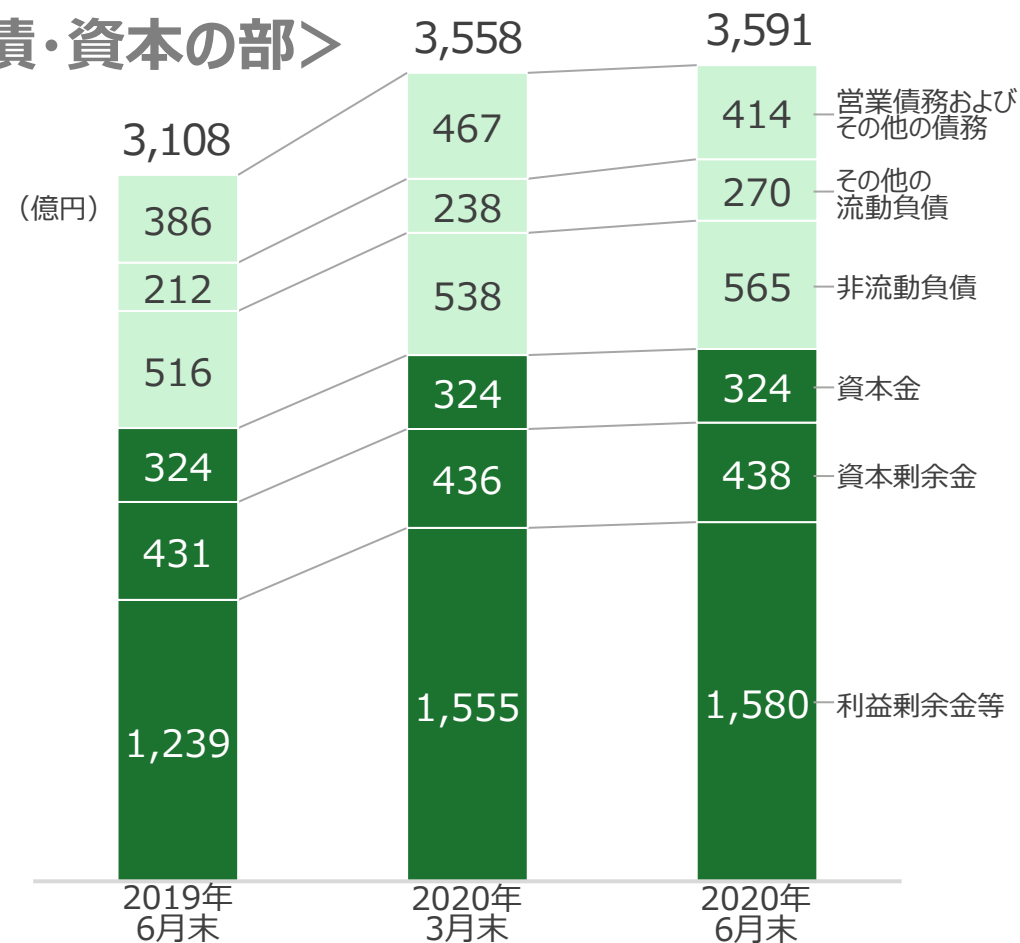


# 連結財政状態

## <資産の部>



## <負債・資本の部>



親会社の所有者に 帰属する持分	1,994	2,315	2,342
親会社所有者 帰属持分比率	64.2%	65.1%	65.2%

# 2020年度事業見通し

---

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

# 半導体テスト市場の動向 <20年7月時点の見方>

## CY20予想

### –SoCテスト市場:前年比縮小を予想

- 米国の中国企業規制強化後、OSATの投資姿勢は大きく変化。スマートフォン全体への減速懸念から、一部機種向けを除きテスト投資を保留する動きが業界に拡大、先端プロセス品向けのテスト需要の伸びをオフセット
- 中国企業関連サプライチェーンの変動が落ち着き、テスト市場が正常化するまで半年から1年を要する可能性も
- 加えてCOVID-19に伴う最終需要減速が、車載向け、ディスプレイ向けなど広範な領域でテスト需要を下押し

### –メモリ・テスト市場:前年比拡大を予想

- データセンター投資の活況を背景に、DRAM、不揮発性メモリとも、暦年上期は従来想定以上にテスト投資が進展。暦年下期は一服を見込むも、CY21はメモリの大容量化・高速化進展に伴う一段の市場拡大を期待

	CY17実績	CY18実績	CY19実績	CY20推定
SoCテスト市場	約\$2,200M	約\$2,550M	約\$2,700M	約\$2,400M (1月時点推定:「約\$2,700M」)
メモリ・テスト市場	約\$750M	約\$1,150M	約\$650M	約\$1,000M (1月時点推定:「約\$800M」)

# FY20業績予想

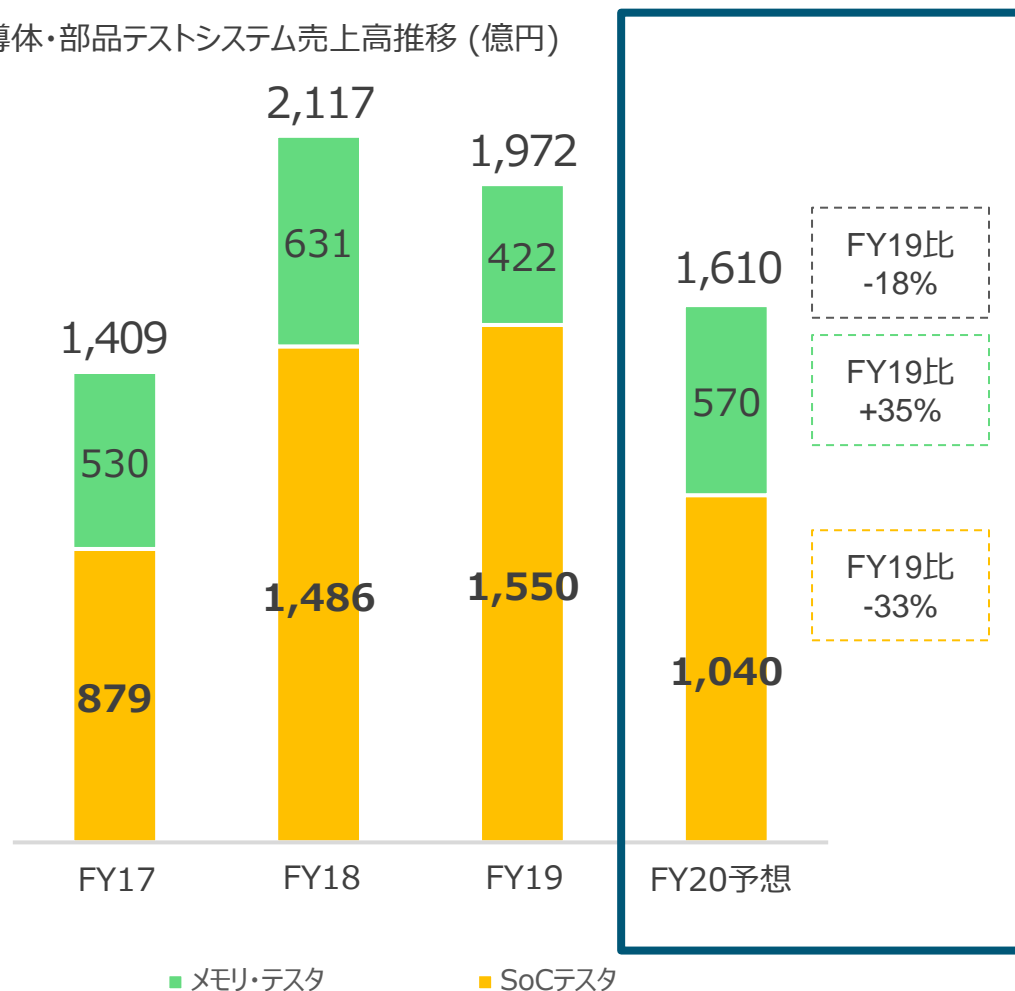
(億円)

	FY19	FY20						前年度比	
		実績	1Q実績	2Q予想	上期予想	下期予想	通期予想	増減額	増減率
受注高	2,878	615	555	1,170	1,230	2,400	-478	-16.6%	
売上高	2,759	667	733	1,400	1,200	2,600	-159	-5.8%	
営業利益	587	135	142	277	173	450	-137	-23.3%	
営業利益率	21.3%	20.2%	19.4%	19.8%	14.4%	17.3%	-4.0pts		
税引前利益	586	129	142	271	173	444	-142	-24.2%	
当期利益	535	106	113	219	139	358	-177	-33.1%	
当期利益率	19.4%	15.8%	15.5%	15.6%	11.6%	13.8%	-5.6pts		
受注残	910	857	680	680	710	710	-200	-22.0%	
為替レート*	1米ドル	109円	108円	105円	106円	105円	106円	3円 円高	
	1ユーロ	121円	118円	120円	119円	120円	119円	2円 円高	

\* 為替レート変動が当社のFY20営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時プラス6億円です。対ユーロはマイナス1.5億円です。

# FY20見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



## 半導体・部品テストシステム事業

### <SoCテスト>

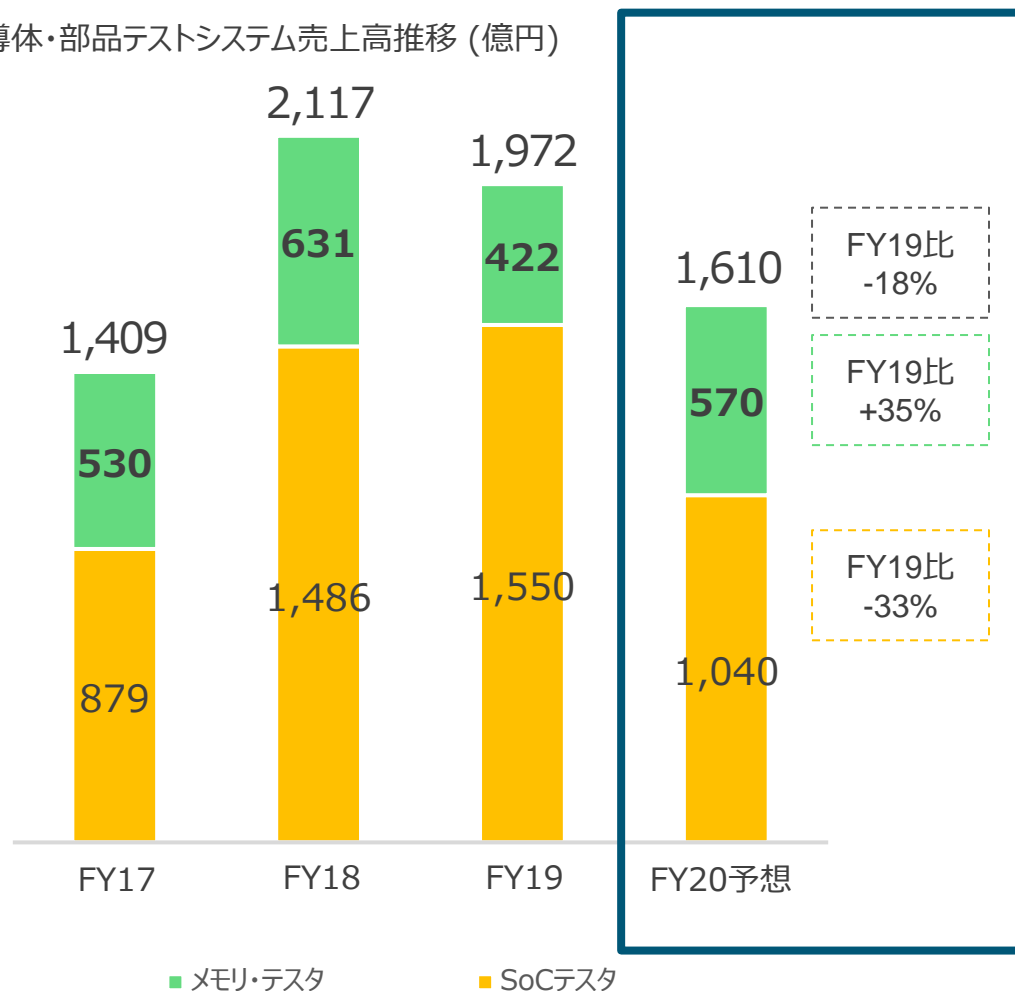
- 半導体の高性能化トレンドが継続する一方で、米中対立がSoCテスト顧客の投資意欲に大きく影響
- コロナウイルスの影響による最終需要減衰を反映し、車載、産機、民生用半導体向けの需要も低下
- HPC向けの需要は伸びているが、テスト市場を下押しする圧力が当面は上回る見込み

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
SoCテスト	791億円	1,359億円	+72%
メモリ・テスト	353億円	541億円	+53%
合計	1,142億円	1,900億円	+66%

# FY20見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



## 半導体・部品テストシステム事業

### <メモリ・テスト>

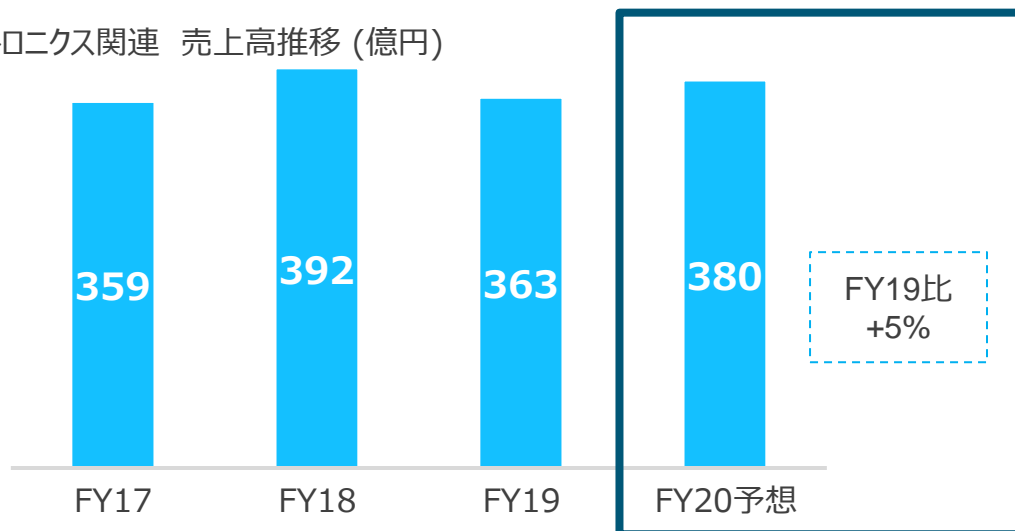
- データセンターの投資回復に加え、COVID-19拡大に伴うWFH対応需要の立ち上がりメモリ市場を活性化。サーバー用メモリ需要増を通じてテスト需要を喚起
- FY20下期はスローダウンする見通しだが、前工程投資に伴うウエハ投入枚数増、メモリ性能向上などの好影響がテスト工程へFY21以降波及すると期待

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

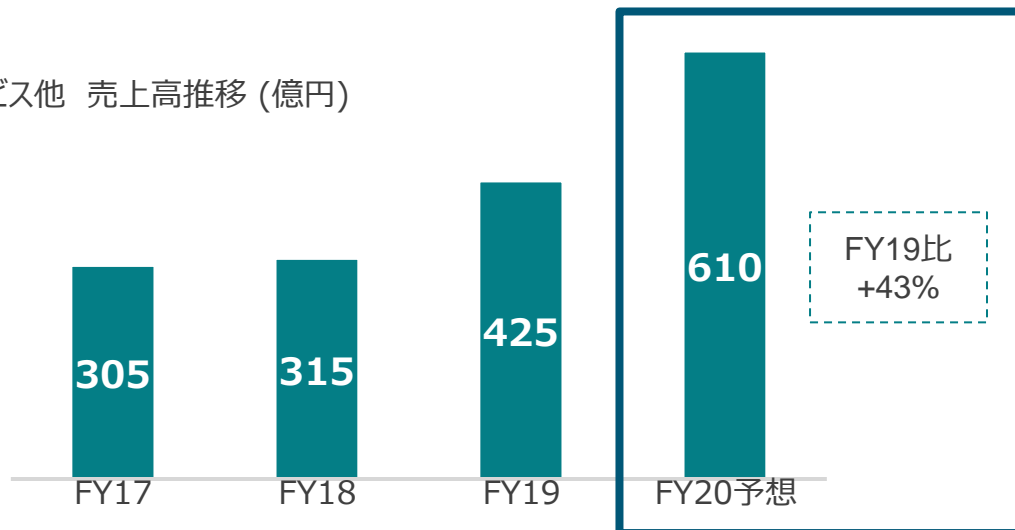
	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
SoCテスト	791億円	1,359億円	+72%
メモリ・テスト	353億円	541億円	+53%
合計	1,142億円	1,900億円	+66%

# FY20見通し（事業別）

メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



サービス他 売上高推移（億円）



## メカトロニクス関連事業

- メモリ・テスト需要好調に伴い、インタフェース製品中心に前年度比増収を見込む

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
メカトロニクス	309億円	378億円	+22%

## サービス他事業

- システムレベル・テスト事業で新規獲得したSoC顧客の売上伸長により、セグメント全体に大幅増収を計画
- フィールド・サービス事業も、顧客内のテスト台数の増加による底堅い推移を見込む

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
サービス他	300億円	450億円	+50%

# 中長期成長に向けた取り組み

## 「グランドデザイン」(中長期経営方針・FY18-27)

<ビジョン・ステートメント>

「進化する半導体バリューチェーンで顧客価値を追求」

<経営目標>

「売上高3,000億円～4,000億円の達成」

- 成長分野へのフォーカス、顧客とのパートナーシップ強化でシェアを年1%ペースで改善 (CY17実績:36%→CY27目標:46%)
- 新規事業として、現在のコアビジネスの周辺分野の開拓

## 中期経営計画(FY18-20 平均)

	保守的シナリオ	ベース・シナリオ
半導体試験装置市場 成長率	年0%	年4%
売上高	2,300億円	2,500億円
営業利益率	15%	17%
ROE	15%	18%
1株当たり当期利益(EPS)	135円	170円

## FY20重点施策

- 足元の環境変化に機動的に対応しつつ、長期的な成長に向けた投資を引き続き推進
- 半導体の高性能化やテストの重要度増進など、当社の中長期的成長を支える市場トレンドに変化が無い中、重要顧客とのエンゲージメント強化/市場シェアの維持拡大策を進める
  - 5Gのミリ波領域やハイエンド・メモリでのシェア維持・拡大
  - 工場自動化対応など、総合的な品質向上提案によるパートナーシップの強化
- 気候変動への対応などESG経営の高度化

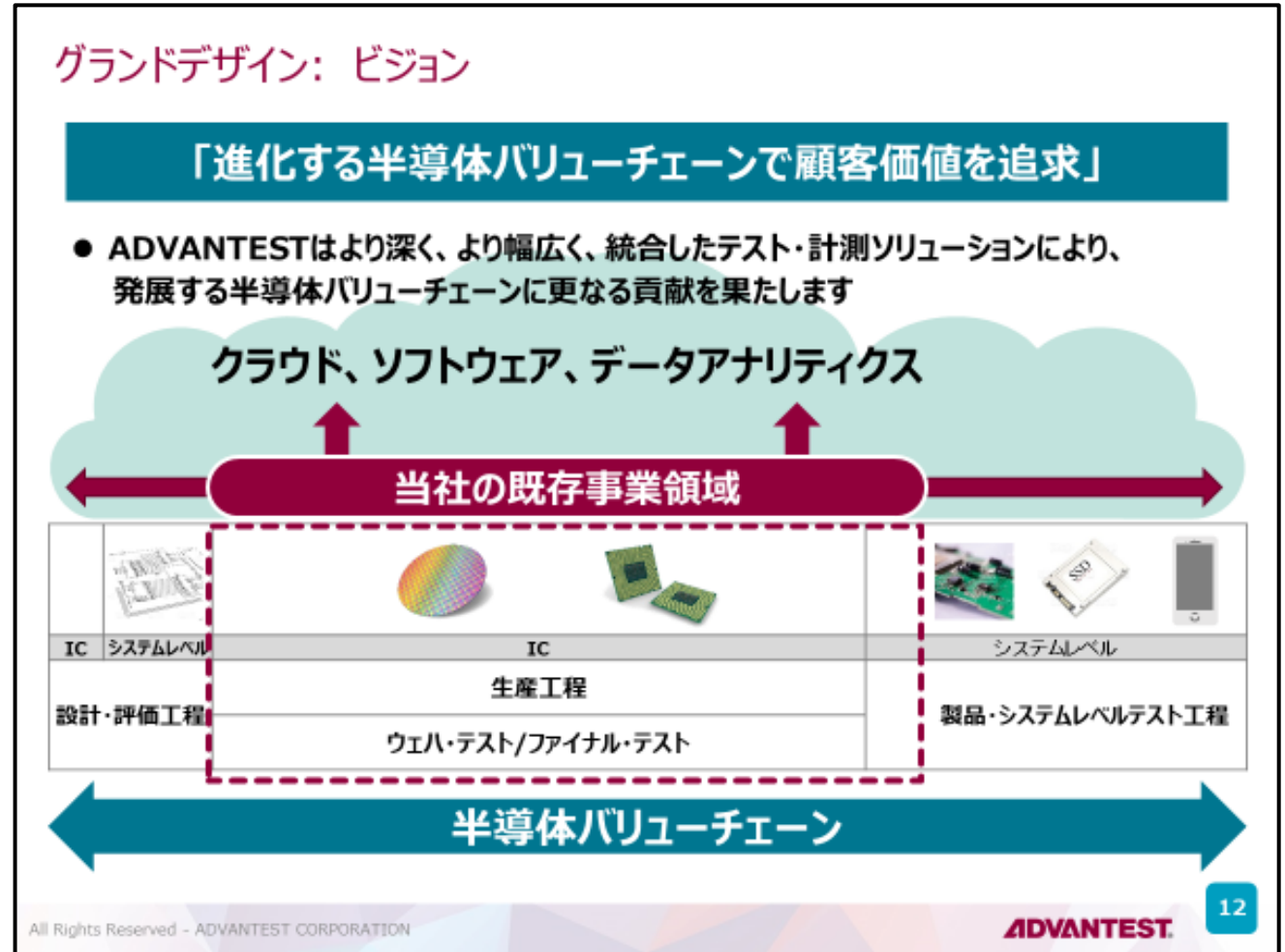
	FY19実績	FY20予想
研究開発費	401億円	410億円
設備投資	99億円	100億円
減価償却費	109億円	110億円



# データアナリティクス・ソリューション拡大 -PDF Solutions社との提携-

## グランドデザインで描いたビジョン実現のため 半導体業界向けデータ解析ソリューション 最大手・米国PDF Solutions社と提携

- PDF Solutions社のソフトウェアをベースに Advantest Cloud を構築（共同開発）。設計からウェハ/ファイナル・テスト、システムレベル・テストまで一貫した解析環境・プラットフォームを構築・提供
- 両社のソフトウェアを相互販売
- 関係強化のためPDF Solutions社へ出資（約\$65M）



(出所：2018年4月公開の中長期経営方針説明資料)

# 自己株式の取得について

## 現中期経営計画における資本政策

- ✓ 事業成長基盤の強化と健全な財務状態の維持のため、中計期間累計で850～1,000億円を目安としたフリー・キャッシュ・フロー創出
- ✓ 安定した事業活動を担保するための適正現金保有レベル：500～600億円
- ✓ 超過資金についてはM&A、研究開発、設備増強等の、成長に向けた投資を優先。中計期間累計のM&A投資枠：1,000億円
- ✓ 株主還元については半期連結配当性向30%を基本とし、1株当たり利益の成長を通じて配当水準を向上するという方針を継続
- ✓ 長期にわたって余剰資金が留保される場合は、成長投資見込みを勘案しつつ、配当性向の見直しや自己株式取得等の総株主還元を機動的に検討



- 上記方針にのっとり、現状の現預金残高、中長期的な成長投資の進捗動向などを鑑みつつ、資本の効率的な活用の推進およびストック・オプション（新株予約権）行使に充当することを目的に自己株式を取得
  - 取得し得る株式の総数：250万株（上限）（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合：1.3%）
  - 株式の取得価額の総額：150億円（上限）
  - 取得期間：2020年7月31日～2020年10月30日

# サマリー

---

- コロナウイルスによる最終需要減退と米中対立の激化を受け、FY20は減収減益を予想
- 特にSoC半導体テスト顧客の今後に不透明感が強いが、当社の成長を牽引する半導体の高性能化・信頼性強化の流れも強固
- 中長期成長の柱となるコアビジネスにおいて、5G、RF、メモリなど期待領域における基盤強化施策は順調に進捗
- 同じく中長期的な見地を進めている周辺領域への展開については、ここ2年M&Aで強化してきたシステムレベル・テスト工程に加え、新たにクラウド・データアナリティクス領域にも拡大
- 資本効率向上のため、自己株式を取得

# ESG・外部評価関連トピックス

---

- VLSI research社の顧客満足度調査にて全SPE中、第1位を獲得
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明
- MSCI ESGインデックス 日本株女性活躍指数銘柄に採用（WIN、セレクト）
- COVID-19 および 令和2年7月豪雨災害など、各国で寄付を予定